



前橋市生涯学習  
奨励員連絡協議会

責任者 大井常利

事務局  
前橋市教育委員会  
生涯学習課内

〒371-0023  
前橋市本町2-12-1  
K'BIX元氣21まえばし  
3階

☎(027) 210-2198

## 戦争体験と平和への思い

### 戦死者の遺留品を持ち帰る

昭和一六年二月八日、大東亜戦争勃発。その二日後私は永明国民学校五年生らの見送りを受けて出征、ほとんど戦地で四年三月月過す。最初の駐屯地は満州吉林省琿春、主な勤務は国境警備、ソ連兵と毎日対峙、緊張の連続で、時に散発的打ち合いをした。冬は寒さ厳しく軍靴が凍り、凍傷となる。今も通院。(後遺症)

また、中国ゲリラ兵による小競り合いが頻繁にあり、ゲリラの迫撃砲で左腕を負傷、傷痕今も残る。戦友多くが死傷する。やがて私は原隊から師団司令部へ異動(兵士の服務、遺骨の内地送還等)。緊張の満州で三年が過ぎたころ、南方戦況不利となる情報が入る。一九九年六月、いよいよ私の師団もヒリッピンに向かうが戦況悪く台湾に上陸し台中省田中に駐屯。

当時、台湾全土が連日、米軍による艦

## 生死を分けた砲弾 亡き戦友に日々手を合わせる



### 後世へ「生」の声を伝える

砲撃に遭い、焼夷弾が私の鉄兜に直撃、失神、数時間後に愛馬に助けられ、野戦病院に収容。このころ、各部隊においても戦死者が多く出て、同僚と共に約一千八百余体の遺骨、遺留品等を連日整理、七冊の遺留品名簿に纏めた。復員時に命がけで一冊を腹巻きに隠し持ち帰った。今でも床の間に観音像と共に安置、毎朝お茶を汲み手を合わせている。

私は犠牲になった戦友の無念を偲び、戦争体験の話は一切禁句にしてきた。今から一二年

年前、地元の大室小学校から卒業生に「平和の大切さ」戦争体験談を是非との要望があり、戦争体験者として責任を感じ、引き受け戦争の尊い犠牲と平和の大切さを忘れてはならないことを、毎年「生」の声で伝えている。この話を沢野校長先生が感銘、企画、城南公民館の協力で紙芝居「アリと馬」を作製、普及活動に役立てている。

## コロナ禍の中の奨励員活動を綴る一

### 生涯学習冊子が完成

新年度総会は5月14日を予定

コロナ禍で行事の中止が続いた令和二年度の前奨連の活動の総括と新年度の行事の方針を討議する総務委員会が二月一八日に中央公民館で開かれました。

今年度の事業では、長い自粛生活の中で、奨励員の活動の足跡を記す生涯学習冊子「地域のつながりを求めて」奨励員の活動紹介(前橋市生涯学習推進本部・前奨連主催)が完成したことが編集作業の中

心となった生涯学習課から報告されました。冊子は奨励員から寄せられた原稿や各地域の公民館職員によるインタビューなどで構成され、コロナ禍の中での奨励員活動が紹介されています。

新年度事業としては、中心行事の新年度総会が五月一四日(金)に午後一時三〇分から中央公民館で開催されることが決定されました。総会は感染症防止のため各地区の代表「理事」の参加の下で行われます。以降の行事は「生涯学習フェスティバル」や「生涯学習実践研究会」「前奨連セミナー」などが計画されています。

※「生涯学習冊子」の詳細は四面に掲載します

### ★生涯学習フェスティバル

9月4日に開催

会期は二日に短縮

奨励員の学習活動をイベントを通して紹介する「前橋市生涯学習フェスティバル2021」(前橋市生涯学習推進本部・同連絡協議会・群馬県専修学校各種学校連絡協議会主催)は、関係団体の協議の結果、九月四日(土)午前一〇時から「元氣21まえばし」で開催されます。昨年の代表者会議での決定通り、会期は例年の二日間から一日に短縮し、密度を高めて実施される予定です。

イベントの内容は今後、協議されますが、前奨連の関係では、長い歴史を



長い歴史がある「わがまち広報紙まつり」

刻む「わがまち広報紙まつり」や町の魅力を写真を中心に伝える「テーマ展示」折り紙などを使い遊びや工作を紹介する「昔遊びリサイクル工作ひろば」を軸に調整が行われます。

(広報委員会)

## 地区だより④

## 世代間交流の維持へ

## グランドゴルフ楽しむ

宮城地区 柏倉町奨励員

大崎 義正

## 密集を避け行事を実施

私たちの町でもコロナ禍で、いろいろな行事が順次中止になりました。自治会と一緒にしている防災訓練やバーベキュー、そのほか住民の皆さんが大勢参加してくださる活動も



大人と子どもが一緒にプレーを展開

ほとんど実施できません。このようなかで、人数や参加者を制限して行えたものもありま

は、秋に延期して区民広場で小規模に開催しました。一組六人で八組のみとしました。参加された方には、成績に応じた賞のほかにホールインワン賞や参加賞もあり、楽しく過ごしていただきました。例年は、競技後にバーベキューをしながら話に花が咲く楽しい交流時間となっていました。今回は、お弁当の持ち帰りとなりました。

ほかに行った事業では、一二月二九日にしめ縄作りを、一般の方向けの講習はできないため関係員だけで行いました。少人数での作業に集中してしまい記録写真を撮り損ねてしまいました。年明け後は、代表だけで諏訪神社の元旦祭に参加しました。多くの世代が集まる一月五日の七草粥祭り子どもたちによる上毛かるた大会は、やはり中止になりました。

## 楽しく交流する機会待つ

私を含め、高齢者は感染しないように努めて生活を送っています。テレビ番組も新型コロナウイルスの話題が多く、新聞記事でも同様です。このコロナ禍はいつまで続くのだろうかと不安です。ワクチン接種が始まり、そして、感染が収まっていくと良いと思っています。私にとってはインターネットが遠い存在であるため、以前のよう

## 生涯学習奨励員。いま、わが町で。

## コロナの退散願って

## 子どもが主役でどんど焼き

下川淵地区会長 下川町奨励員

根岸 輝治

今年度は納涼祭、文化祭など下川町の主要行事が新型コロナウイルスの影響ですべて中止となってしまいました。恒例の「どんど焼き」だけはと自治会や関係者で防疫対策に十分配慮し、企画を練り上げ実施することになりました。

下川団地誕生直後から毎年一月の成人式の日を実施され、今年で第四〇回を迎えました。正月飾りのお焚き上げのみで、飲食などはすべて省略されての実施でした。会場は中央公園広場で三密を避けるには十分の広さです。朝八時の点火には多くの町民が集まり、初めての年男と年女になる一二歳の小学生がその任に当たりました。赤く燃え上がる炎には参加者の願いが込められ、コロナ退散への期待もありました。

下川町は、昭和五〇年前後に群馬県企業局の企画で団地計画がまとまり昭和五五年から入居が始まりました。数年のうちに七百余戸にすべてが入居二千余人余の新しい町が誕生しました。入居者は子育て真っ盛りの若い世代で

平均年齢三六歳でした。

昭和五六年には自治会が組織され「ふれあいの町下川」「誇りある町づくりを子どもたちへ」をキャッチフレーズに町づくりが進められました。町の誕生直後から納涼祭や文化祭、運動会などの諸行事が実施に移され、「子ども達を楽しませる」が重要なテーマで活発な取り組みがなされました。四〇年が経過した今日ではすっかり様変わりして高齢化率が市内で最高の町となり、多くの課題を抱えています。

## 先人の熱い思いを継ぎ

## 広報づくりに励む

総社地区 総社町高井奨励員

羽鳥 浩子

令和元年一〇月「広報たかい」が三百号の節目を超え、改めて第一号誕生からの歩みを振り返る機会となりました。

「広報たかい」誕生のきっかけは、地元につながる伝統行事や各種の情報を地域の皆さんに伝達する手立てとして広報紙を発行しようという当時の自治会長さんの熱い思いでした。この呼び

かけが、自治会、各種団体、住民の皆さんを巻き込み生涯学習推進協議会を発足し、平成七年五月に第一号が産声を上げました。紙面には創刊を祝い合う人々の思いが溢れ、百号毎にまとめられた広報紙は地域の歴史の記録となり、その時々地域の様子をうかがい知る資料ともなっています。

総社町高井地区は現在九九〇世帯を有し、昔から地区内のまとまりも強く、取り分け「高井盆踊り」は麻の葉模様の手拭いを腰に、踊り手が周辺町村から押し寄せたと言われます。

自治会諸行事や育成会、老人クラブ、愛好会等の活動が一年を通じ実施され、中でも「百万遍」「夏祭り」「防災訓練」「餅つき」「道祖神祭り」等は、行事の伝承と共に世代間交流の場となっています。その様な場での生き生きとした人々の姿を写真と共に記事にし、更に各種団体や地域の方々からの投稿を頂き、親しみの持てる役立つ広報を作り届けたく、協議会で校正し毎月発行しています。

しかし新型コロナウイルスの影響で人々の交流は絶たれ、また市の広報が月一回になる等の状況から、大切な情報を分かり易く伝達する事を模索し「広報たかい」を立ち上げ発行してきた方々の思いを引き継ぎながら、より良い広報紙作りに努めたいと考えています。

## 心豊かな催しづくりへ

### アイディアを蓄える

大胡地区滝窪町奨励員

志村 長永

今年度は新型コロナウイルスの影響で恒例の行事がほとんど開催できませんでした。他の多くの自治会も同様の状況であったと思います。

例年、滝窪町では作品展示会や、どんど焼き、それにボランティアによる「いきいきサロン」など様々な行事が行われていて、それぞれ地域の人々の

盛んな交流の場となっています。

いきいきサロンでは大きなイベントの、うどんの会や子ども会と合同の、そうめん流し、落語を楽しむ会、ピンシャン体操、その他にお茶会でのお喋りなど月一回の開催に工夫を凝らしています。

いきいきサロンはその都度、事前に会議をし、当日は買い出し、野菜の持ち寄りなど朝早くから準備をすすめ、自治会役員も TENT 張りをしたりと皆で協力しながら、招待する側もされる側も笑顔でいきいきしています。ボランティアの人の中で八〇歳を超えても、未だ元気にうどんを打って皆を楽しませてくれる方がいますが、これには頭が下がる思いです。

こんなに楽しい時間を共有している

## イベントなどに備えて

### 新たなトイレを新設

城東町一丁目奨励員

篠原 豊

城東町一丁目には公園が二つあります。一つは城東パーキングの前にある広瀬川河畔緑地公園。ですが、ここにはトイレがありません。いま一つは中央郵便局前の第一公園です。

このトイレは開園当初から長い間男女共用のものが設置されていまし

たのに、今年はステイホームで交流の機会を失い、それぞれが孤立して淋しい思いをしていることに心を痛めています。

しかし、こんな時だからこそ出来ることはあります。それは来たるべき作品展示会のためにより良い作品作りに楽しく携わることであり、さらに趣味を拡げて少しでも心を豊かに出来るよう考えることです。また、いきいきサロンでの催しに苦慮することがありますが、そのためのアイディアを色々貯めこんでおきたいものです。こんなことを折に触れて他の人にも呼び掛け、伝えることを更に続けて行くつもりです。

一日も早いコロナ退散を祈りつつ。

た。前橋まつりなどのイベント時に多くの自治会員が使用するので長い行列ができません。

自治会の要望もあり役員会で市当局に陳情を続けやと改修の順番が来たとかで、一昨年の秋遅くなって工事が始まり昨年の五月に男女別の入り口が二ヶ所あるトイレが完成しました。

コロナ騒ぎでまだ自治会員にはお披露目してないので、多くの自治会員が使用していませんが建物が新しいので目立っています。



前橋郵便局前に設けられた公衆トイレ

## ★生涯学習冊子 新たな活動のヒントに 多彩な学習情報盛り込む

今年度は、生涯学習フェスティバル、実践研究会等が中止となり、奨励員さんが集まる機会、生涯学習について学び広める機会が極端に減ってしまいました。先の見えないコロナ禍の中で、今後の活動に悩まれている方も多いと思います。

生涯学習推進本部では前奨連と共催し、奨励員さんが、今後の活動のヒントを見つけられるような生涯学習冊子の発行を計画してきました。

昨年秋頃より、記事掲載のため、全奨励員さんからアンケートにご回答いただいたり、他町に伝えたいことや、自身の活動の工夫等を情報提供いただいたりする等、たくさん

の方に協力をいただきました。多くの記事が集まり、掲載内容の確認・校正を終え、総ページ数九〇ページを超える内容

の濃い冊子が発行することができそうです。

具体的な掲載内容としては、前奨連役員さんから寄稿をいただいた「生涯学習奨励員コラム」、全奨励員さんから回答いただいた内容をもとに統計を取ったり、活動例を記載したりした「奨励員一問一答まとめ」、コロナ禍の今年度、限られた中で工夫を凝らして事業を行った町の活動事例を紹介した「コロナ禍における生涯学習奨励員活動事例紹介」等々です。

発行は三月三十一日付けで、四月に入り自治会長様を通して奨励員の皆様のお手元に届くよう、調整しております。

コロナ禍のおうち時間を活用しながら本

## 奨励員活動の役割を伝える

### Ⅱ 前橋市生涯学習奨励員設置要綱 Ⅱ

前橋市生涯学習奨励員制度は昭和六一年に発足しましたが、同年に奨励員の活動方針などを示す「奨励員設置要綱」が施行されました。このコーナーでは、奨励員の役割を再認識したいと思いで、要綱の一部を抜粋して掲載いたしました。

### 【趣旨】

第1条 この要綱は、前橋市生涯学習推進本部設置運営要綱第6条に基き、前橋市生涯学習奨励員（以下「奨励員」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

### 【委嘱】

第2条 奨励員は、生涯学習についての識見を持ち、社会的信望が厚く、奉仕活動への意欲と実行力のある住民の中から選ばれる。自治会長は地域住民の意見を聴き、各町自治会区域ごとに奨励員1人を

## 学習意欲の向上へ 地域団体との連携を大切に

推薦し、生涯学習推進本部長が委嘱する。

### 【役割】

第3条 奨励員は、自治会及びその他の地域団体並びに中央公民館・地区公民館等と協力しながら、主として当該地域内において、町公民館等集会施設を

冊子をお読みいただき、今後の活動に思いを馳せたり、挑戦してみたい生涯学習活動を見つけたら幸いです。

(生涯学習課 社会教育係 青木 滋旺)

## 島田顧問の講演を収録 戦争体験の記録集を発行

前奨連会報の前九〇号で掲載した記事「戦争の記憶を後世へ残すために」に関して、戦争体験者からお話を聞き、その内容をまとめた記録集の製作を現在行っています。今回、自身の体験をお話しくださったのは、前奨連顧問の島田兼之さんです。

昨年二月一三日には、島田さんを講師にお呼びした講演会が城南公民館で開催されました。会場へは地元の方を中心に四十一名の方が来場され、島田さんの体

拠点に、生涯学習にかかわる次に掲げる活動を行う。

- (1) 各種の学習及び諸活動への意欲を高め、新たな機会を組織し、その活動を援助すること。
- (2) 既に行われている活動を奨励すること。
- (3) 団体及びグループ・サークル等の活動を奨励すること。
- (4) 指導者となり得る人材を発掘し、活用すること。
- (5) 地域での生涯学習活動を地域づくりと関連した活動となるよう配慮すること。
- (6) その他、目的達成のため必要な事業に協力すること。

験談や、平和に対する思いに耳を傾けられていました。

製作中の記録集では、その講演会での内容に加え、事前に行った対談内で別途お話しいただいた内容も掲載予定です。

また、講演会後には、さらに細かなお話を聞かため二回目の対談実施を予定していましたが、県の警戒度が「4」であったことから、残念ながら中止となりました。それでも、島田さんの多大なる協力のもと、事後の対談でお聞きする予定だった内容について、書面でご回答をいただくことができました。「戦前の子どもたちの様子」や「教員を勤めていた経験から戦後の教育で苦労されたこと」といった質問にも丁寧なお答えをいただきましたので、それらも含め記録集に掲載を予定しています。

記録集の発行は四月以降、生涯学習奨励員さんへお届けする予定です。

## あゆみ (1月・3月)

### ▼Ⅱ主要事項

- 2・18 ■第二回総務委員会
- ▼令和二年度の活動の総括と新年度の事業計画
- 3・26 ■第二回理事会(書面開催)

## ◆奨励員情報 (敬称略)

### 社会教育活動功労者表彰

▼2月3日付

小林 勇 富士見町梶谷

### 【新任】

▼1月1日付

小林 寧 若宮町三丁目